

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	中心市街地木製看板設置事業
事業主体 (連絡先)	木曾町 (観光商工課 0264-22-4285)
事業区分	⑥ 産業振興、雇用拡大に関する事業 ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,850,000円 (うち支援金: 2,280,000円)

事業内容

木曾五木を中心とした木曾の豊かな森林資源の効果的な発信と、町並みの統一感を演出して観光客の流れを中心市街地へ誘導することを目的に、木曾福島市街地戦略会議が実施主体となり、市街地を構成する商店街の商店及び事業所において、地元産材(木曾檜・ネズコほかカラマツ・ケヤキ等)を使用した木製看板を設置した。R元年度に続く2年目であり、計100枚の木製看板を市街地に設置した。



【 看板設置作業の様子 】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①木曾福島中心市街地の50店舗(八沢商店街20店舗、中島商店街13店舗、上町商店街10店舗、駅前商店街4店舗、その他3店舗)が参加した。木曾福島の中心市街地全体に昨年と合わせ100カ所に設置でき、地域全体で町並み統一を図ることが出来た。
- ②地域資源を活用し、森林資源をPRするため、3種類の地元産材(アスナロ、ヒノキ、ネズコ)を使用した。
- ③看板は宿場町の雰囲気合うようすべて手彫りで製作し、観光客等が楽しめるよう和風のイラストや店舗の特徴を表したイラストが彫刻されたものも設置した。観光客の反応や集客への影響度等は今後各商店会長よりヒアリングを実施する。

【目標・ねらい】

- ① 看板設置目標 50店舗(R2)
- ② 木の町をPR
- ③ 観光客等が楽しめる町並みづくり

※自己評価 【 B 】

【理由】

- ・目標どおり50基設置した。
- ・市街地全体で木を目にする機会が増えた。
- ・宿場町という特性を活かし、雰囲気に合う看板を製作した。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

5商店街が木製看板を通じて、中心市街地の景観に意識を向け、同じ方向性を共有できた。各商店街の横の連携も図られたことから、今後も商店街全体の課題を共有し、空き家対策など観光客等が楽しめる町並みづくりを一緒になって進めていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある